No.

Date

第2章 開国と幕府の終わり (P146 ~ P153)

① 外国船への対応

異国船打払令(1835)により, 外国船を追い払う

↑

高野長英・渡辺崋山ら批判 → 蛮社の狩り

イギリスと清との アヘン戦争(1840)が勃発

イギリスが清を敗り, 不平等な条約である南京条約を結んだ

香港, 賠償金を得た

↓

薪水給与令(1842)をだし, 薪や水を与え退去させる方針に

② 諸藩の改革

・働き手を工場に集め, 分業して生産する工場制手工業へと変化

・財政悪化に伴う, 専売制などをおこなう藩の登場

③ 幕府の衰退

・天保のききんによる米不足 + 商人の買い占め → 一揆や打ちこわしが続発

↓

元大阪町奉行の大塩平八郎が乱を起こした → 幕府は強い衝撃を受けた

・老中の水野忠邦による天保の改革

・株仲間の解散

・ぜいたくの禁止

・出版物の統制

・上知令

・人返し令

=> 力をつけた商人, 大名らの反発により失敗

No.

Date

④ 開国へ

・1853年にペリーが来航 → 1854年に日米和親条約を結び開国

・大老の井伊直弼が1858年に日米修好通商条約を結ぶ

領事裁判権を認める 関税自主権がない 等の不平等条約

↓

尊王攘夷が広まる → 井伊直弼による安政の大獄 → 桜田門外の変で井伊直弼を暗殺

⑤ 幕府の滅亡

生麦事件が起こる → 薩英戦争へ → 薩摩藩は攘夷から倒幕へ

長州藩が外国船を砲撃 → 米・仏・英・蘭による下関砲台の占領 → 長州は攘夷から開国へ

坂本龍馬の仲立ちで薩長同盟を結ぶ

↳ 倒幕運動へ → 幕府が長州を攻撃するも失敗

⇩

徳川慶喜は幕府だけの政治は困難と考え, 天皇に政権を返上(大政奉還)

↓

西郷隆盛・大久保利通・岩倉具視らによる王政復古の大号令を発表

天皇中心の新政府の成立を宣言

↓

戊辰戦争へ → 新政府の勝利

↓

1869年に新政府軍による国内の統一が完成

問. なぜ江戸幕府は滅亡したのか.

1830年代の好景気のなかで, 天保のききんにより貧富の差が生じ更に米の買い占めが重なり, 一揆や打ちこわしといった形で幕府への不満が露わになった。そのような中で, ペリーが来航し開国したことにより, アメリカ等の国々と貿易するようになったため, 海外から安い製品が輸入し, 国内で流通した。その結果, 国内の経済が混乱したため, 国民の幕府への不満がより強くなり, 国内で2つの考えが生じ後に倒幕運動へと進んでいった。幕府は政権を天皇に返し, 天皇の下で政治をおこなおうとしたが認められず戊辰戦争へと発展したが新政府の近代的な軍に敗れ, 新政府の言うことを聞かざるを得なくなったため幕府は滅亡した